

一般社団法人レジリエンス協会 2023年2月公開研究会
UNDRR（上級編）評価指標からの日本版策定について

芝浦工業大学大学院理工学研究科システム理工学専攻
藤澤 青葉

【1】 レジリエンスの3資質

2015年に策定された国際的指針であるSDGsと仙台防災枠組の異なる2指標において、その目標に相互に関連が見られ双方に共通して基底する要素を連携力・環境適応力・次世代対応力の3つのレジリエンス資質群に分類できるのではないかという仮説を立てた。

【2】 UNDRR” Disaster Resilience Scorecard for Cities (Detailed Assessment)”

UNDRR発行の文献 Disaster Resilience Scorecard for Cities (Preliminary Assessment/Detailed Assessment)を参考に、公開情報を基にした第三者からの評価が可能とした初級編となる10の評価指標と、自治体の防災担当者が自己評価を行うことを想定した上級編となる57項目の評価指標(以下「本指標」という。)の2種類の指標の策定を試みた。

【3】 日本版サステナブル評価指標上級編の検討について

今年度は、以下の4つの工程に沿って本指標の策定を行った。

- ①UNDRR ”Disaster Resilience Scorecard for Cities (Detailed Assessment)” 評価指標 117項目の内容確認および読み合わせ
 - ②日本版評価指標（約57項目）への絞り込みと5段階の評価リストへの加工
 - ③レジリエンスに関係する重要な3資質群への分類
 - ④数値や法整備の状況、自治体担当者の評価を想定した日本版の評価指標としての修正
- 現段階までの結果として、参考文献の117指標を57指標にまで絞り込み、それらをレジリエンス3資質に分類し整理した。

【4】 上級編プレ評価について

初級編 Web 分析からの評価で高得点を示した自治体 A 市と C 市を取り上げ、日本評価指標上級編の Essential01 関連指標の一部を用いてプレ評価を行ったところ、57項目に拡大し各段階に分けた評価指標では明確な差異が生じた。全57項目において同様の評価を行った場合に、その自治体固有の結果が生成され、力を入れていくべき点が明らかになっていくという仕組みを目指した。

【5】 来年度への展望

今年度は上級編評価指標の分析と策定を行った。来年度は実際の自治体防災担当職員による評価を反映した評価指標の最終的な完成や、地方創生への取り組みと結びつけるため評価情報共有プラットフォームの構築を目指していく。